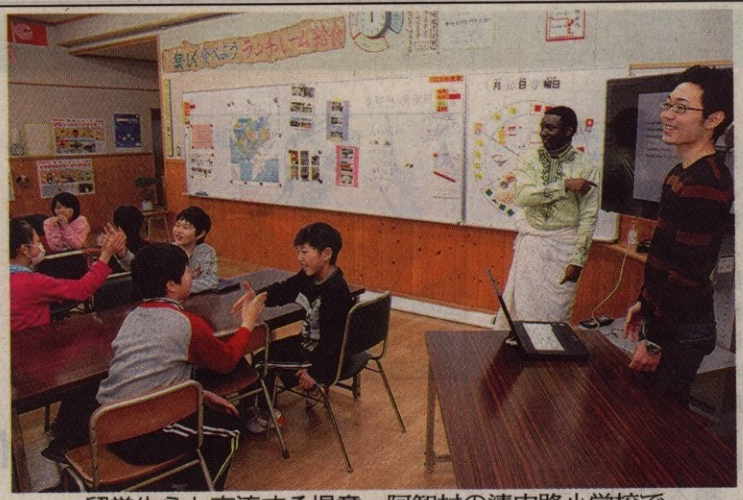
中日新聞 2012.1.21

（第3種郵便物認可）

いろんな国覚えたい

清内路小児童 名大留学生らと交流

阿智



留学生らと交流する児童＝阿智村の清内路小学校で

阿智村の清内路小学校で二十日、名古屋大学大学院の留学生らと児童の交流会が開かれ、児童がさまざまな国について学んだ。

同小を訪れたのは同大大学院国際開発研究科の、カンボジアやナイジェリアの留学生六人と日本人学生二人。授業参観をした後、ランチルームや音楽室に分かれて、交流した。

ランチルームでは、高学年の児童が参加、カンボジアやナイジェリアの民族や言葉などについてクイズ形式で教わった。会場では、さまざまな民族のあいさつが飛び交い、クイズに答える児童の歓声が響いた。

教育システムを研究するカンボジア人のセン・ワンマレンさん（二七）は「世界遺産などぜひ見に来て」と児童に呼び掛けた。六年生の桜井大希君（一二）は「いろんな国のことがよく分かった。もっと覚えたい」と話していた。

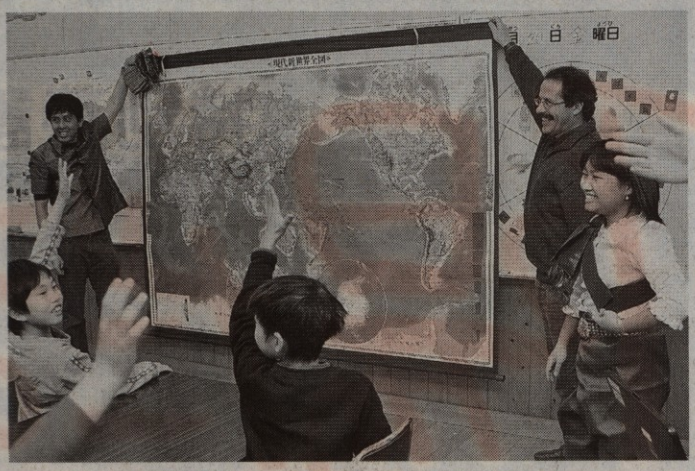
同大からは昨年に続く二回目の訪問で、山間部の学校の教育などについて学ぶのもテーマとなっており、留学生らは熱心に授業の様子を見学していた。

（吉田幸雄）

情報ひろば

2012.01.21

南信州新聞



清内路小の児童と交流する留学生ら

名大留学生と国際交流

清内路小 山間部教育の視察に合わせ

名古屋大学の大学院で教育学を専攻する院生が20日、阿智村の清内路小学校を訪れ、山間部教育の現状を見聞きしたほか、児童との交流を楽しんだ。

主に発展途上国の教育を研究テーマにしている学生たちが、日本の多様な教育現場を訪問する取り組みの一環。カンボジア人とナイジェリア人を含む学生8人が、国際開発研究科の山田肖子准教授、米国と中国の大学教授とともに訪れた。

授業参観に続く交流会では、自国の文化を感じさせるいでたちの外国人留学生たちが、カンボジアやナイジェリアの特徴、あいさつや文化を教えてから、復習の要素が色濃いクイズを出題。積極的に手を挙げて答えた子どもには、伝統織物のハンカチやポストカードがプレゼントされた。

「カボチャの名前の由来はカンボジアの国名にある」と教えたセン・バンマレンさんは「子どもたちは活発で、プレゼンテーションに興味を持ってくれてうれしかった。教えたことをよく覚えているのには驚いた」、5年の原優希さんは「分かりやすく教えてくれてうれしいと思った」と話していた。